

FUJISAWA

OUR Project

OUR news

Okuda Urban Renovation

OUR news では、市民会館や南市民図書館などの公共施設を複合化して再整備する「生活・文化拠点再整備事業」の進捗状況をお知らせします。第 9 号では、2026 年 3 月に開催した「新しく生まれ変わる市民会館エリアを描く」～建築家・隈研吾 × 市・運営者・設計者トークイベント～の内容を紹介します。

※OUR Project : Okuda Urban Renovation Project

トークイベントを開催しました！

「新しく生まれ変わる市民会館エリアを描く」

OUR Project の検討に携わる建築家・隈 研吾氏をはじめ、市、管理・運営予定者、基本設計者が、本格始動した本プロジェクトについての講演会・パネルトークを実施しました。

OUR Project

トークイベント

開催概要

日時：2026 年 3 月 7 日（土）10：00 ～ 12：00

会場：藤沢市民会館小ホール

藤沢市民会館第2展示集会ホール

プログラム

－事業概要説明（藤沢市企画政策部企画政策課）

－講演会

「やわらかな公共建築」建築家 隈 研吾 氏

－パネルトーク

隈 研吾氏 × 管理・運営予定者 × 基本設計者 × 藤沢市

- ① OUR Project は、「ハコモノ整備」ではなく何をを目指すのか？
- ② 現在どのような検討・議論をしているのか？
- ③ 子どもの頃の原体験を踏まえ、「まだ知らない新しい可能性」との出会いを、どのように応援するのか？
- ④ OUR Project は、藤沢市のみらいのまちづくり、市民の豊かさにどうつながるか？



隈 研吾氏 講演会

隈研吾氏が設計された「やわらかな公共建築」を例に、

1. 建築をまちに“ひらく”
 2. 建築が触媒となり周りの地域を“つなぐ”
 3. コストを抑えること
 4. 改修を容易にする設計
- についてお話しされました。



隈 研吾氏 / 建築家

1954 年生。1990 年、隈研吾建築都市設計事務所設立。慶應義塾大学教授、東京大学教授を経て、現在、東京大学特別教授・名誉教授、日本芸術院会員。主な作品に、国立競技場や高輪ゲートウェイ駅の設計に携わった他、根津美術館、スコットランド V&A Dundee など 50 を超える国々でプロジェクトが進行中。自然と技術と人間の新しい関係を切り開く建築を提案。著書も多数。

建築をまちに“ひらく”

国立競技場（東京都新宿区、現・MUG スタジアム）では競技場の外周に市民が日常的に利用できる通路を設置し、長岡市役所（新潟県長岡市）では建物の中心に「土間」を設置した。このように“ひらく”仕組みを公共建築に使うと、市民の日常的な利用が増える。

しかし、100%オープンな空間にしてしまうと想定外な事象が起きる可能性があるため、ひらき方をコントロールする仕組みの検討が必要。また、飲食や勉強などができる可働椅子を置いてみることや異なる機能を一体的に利用できるように、使いやすく・楽しい空間を考えることも利用者を増やす必要な仕組みであると考えます。

地域の要素を“つなぐ”

今回の事業は「地域をつなぐ」がテーマだと思っている。海外の事例では、閉じていた空間を“ひらく”ことでまちと公共建築をつなぐことや、要素同士をつなぐ道を公共建築に設けることで、分断されたまちをつなぐなど、どのようにどこまでつなげるかを考えながら、様々な取組を行ってきた。このような設計をすることで、公共建築は「地域をつなぐ触媒」のようになると思っている。また、建物の高さを低くすることで地域の流れをつなぐ建築になると考えている。

コストとメンテナンスを考える

11 年前の国立競技場建設の際にコストが問題となった。現在は物価高騰により、さらに建設コストを考えなければいけない状況になっている。今回の事業でも建設コストやランニングコストを意識しながら設計していくことをテーマに設定している。日本の建築は古くからメンテナンスの効率を考えて設計されており、法隆寺では木材を容易に取り換えることで 1,400 年残っている。国立競技場でも簡単に手に入る木材を使用したり、木材の老朽化が懸念される場所は木目調のアルミを使うなどメンテナンス面の課題を解決している。また、自然エネルギーや自然

環境をうまく使うことで運営コストを削減することができると考える。

「やわらかな公共建築」をつくるためには、地元の材料や緑を使うことも必要だと考える。しかし、管理が最小のメンテナンスで済むような仕組みを構築する必要があると考える。

市民活動を“受け入れる”

藤沢市では、市民オペラやボランティアなど市民の皆さんの活動が盛んであると聞いている。市民活動を受け入れる場所をつくるのが、この事業では必要だと思う。長岡市役所を設計した際に、当時の市長は市役所の機能よりも、市民の活動を受け入れるように考えていた。その意思を踏まえ、市役所の機能よりも様々な市民活動を行える空間を設計した。

OUR Project の考え方

OUR Project は、市と運営と設計が一緒に考えて「やわらかな公共建築」をつくり出す事業だと考えている。この施設は、施設に分散した活動の種（シード）を市民の皆さんが育てていくことを目指していると思う。そこで、建物を低くすることで「地域の流れを大切にし、周りをつなぐ触媒」となるような案を検討している。また、機能を分散し回遊性のある配置にすることで、市民のやりたいことが育つような建築にしていきたいと思っている。



パネルトーク

隈 研吾氏 × 塩谷 久美子氏（運営・管理予定者）× 古賀 愛乃氏（基本設計者）× 宮原 伸一（藤沢市企画政策部長）
【進行役】遠山 浩司氏（運営・管理予定者）

OUR Project は、「ハコモノ整備」ではなく何をを目指すのか？

宮原 OUR Project は、単なる施設の更新や複合化を目的としたり、建物の竣工がゴールとなる「ハコモノ整備」ではなく、施設の供用開始をスタートと位置付けている。これまでの公共事業は、既存のスケールアップにとどまっていると思う。今回の事業ではユーザー視点で、ニーズの本質を見極め、それぞれの探求心や知的好奇心の刺激であったり、人の心を育てる力などが高まる拠点を作り上げていきたいと考えている。そして、ハードとソフトの両面からビジョンの実現や、場所、人の共有をしていきたい。

遠山 この複合施設は、施設の重ね合わせで、みんなで集まれる場所となることを第一に考え、施設内のオープンスペースを通して、人・モノ・コトがつながり、探求心や好奇心へとつなげていくことを考えています。



現在どのような検討・議論をしているのか？

塩谷氏 私たちは、これまで様々な場所で価値を伝える仕事をしてきたが、運営予定者が事業の初期段階から携われるこの事業は先進的であると考えている。現在、運営者の立場から検討している内容は、市民の皆さんがこの施設でどのような活動をされるのか、運営者としてどのように活動を支えていくのかを考えている。さきほど、隈さんが市民の活動を「シード(種)」とお話されていたが、私たちは、その種に肥料やお水をあげるなどといった森を育てるまでの土壌づくりをどのように行うのかをテーマに議論している。この施設（森＝複合施設）が、市民の皆さんにとって居心地の良い場所・活動できる場所、活動して発表する場になればいいと思っている。

古賀氏 設計の担当者として、現在考えていることを3つお話ししたいと思う。まず敷地に対してどのような施設を設計するべきかという話。通常の公共建築では四角い箱を想像されると思うが、今回は都市部と新林公園など自然の間にある敷地のため、形も用途も複合されるような場が積み重なった丘のような建築にまとめていくことを考えている。2つめは、敷地から外に広がる、周囲を見渡せる場所にしたいと考える。今回の敷地は、藤沢駅か

らある程度歩く距離にあるが、海の風と緑が混ざり合う場所で、その特性を邪魔しないようにしたい。今は層になっている公園・市民会館・図書館をなるべくまとめること、新林公園の方にもつながっていくような施設をつくりていきたいと思っている。3つ目は、ひらく・かさねる・ゆるやかにつなぐという話。1つの大きい箱に部屋や機能が連携しながらまとまっている施設として設計し、「利用目的に限らず“いつでも”来られる」「活動が覗けるなどの工夫をして、活動が“ひらかれ”ていく」「いろんな活動が“かさなり”様々な体験」をできるような施設にしていきたいと思っている。

進行役 運営予定者と設計担当者から今までの検討や今後の思いが聞けたと思う。お話を聞いて、隈さんから一言お願いしたい。

隈氏 今回のプロジェクトについては、最初から運営予定者が入って議論ができるのは素晴らしいし、すごくいいチームができたと思う。また、今日のトークイベントのようなことは、日本ではあまり実施していないが、このように人と人が知り合うのはよいと思う。自分たちの施設として、自分なりの施設ができると思うので、皆様にはぜひ使っていただきたいと思う。

子どもの頃の原体験を踏まえ、「まだ知らない新しい可能性」 との出会いを、どのように応援するのか？

塩谷氏 私の実家は料理屋で多くの大人に囲まれて過ごし、職人の作業風景・出来上がった料理を見るのが原体験だった。この体験を通じて今の仕事をしていると思っており、ここでも職人とのふれあいや作品展示を行っていきたいと思う。

古賀氏 私が通っていた幼稚園は、習い事教室が併設されており、活動を見ることで自分のやりたいことをやってみたいと考えるようになった。習い事は大学生まで続け

た。そこでは、楽しいと思えることや人とのつながりが生まれたことがよかったと思う。

宮原氏 私は、発表会や成人式など節目での行事を市民会館で行ってきた。今後も体験と場所が結びつくような施設になってほしいと思う。

遠山氏 きっかけがあって人生が変わったと思う。そういうきっかけや挑戦を生み出すような施設を作り上げたい。ぜひ使っていただきたいと思う。

OUR Project は、藤沢市のみらいのまちづくり、市民の豊かさにどうつながるか？

塩谷氏 この複合施設が皆さんにとって、体も心も健やかに使っていただける、新しい出会いや感動を体験できる施設であり続けるためには、皆さんと私たちがつながりを大事にするのも重要だと思う。**普通の関係性ではなくお互いに結び付いて一体感と愛着がある、エンゲージリングのような関係性になればと思う。**このプロジェクトが皆さんにとってかけがえのないものになるように管理・運営予定者として進めていきたい。

古賀氏 隈さんがお話した皆さんにとって居心地がよい施設「家の延長であるが、なんか行ってみたい、過ごしてみたい施設」がここにあるべきだと思う。いつも来ている人も、来ていない人も「気軽に来られる」「行けば何かをやっている」こういう施設が今回のプロジェクトで実現できると思う。**どんなことをどんな人がやっているかが見える関係性ができるような活動と、顔がたくさん見えて活**

気がある場所をプロセスの段階から一緒に作ればよいと思うし、その時の出会いを大事にしていきたい。

隈氏 フランク・ゲーリーがシドニーのオペラハウスに対して述べた評価のように、この施設があることで藤沢は「こういうまち」になったんだということがこのプロジェクトでできると思う。**僕たちは OUR Project があるからこういうまちになったんだと後世に名前が残せるような考えを軸にこれからも検討を進めていきたい。**

宮原氏 公共空間を「ひらいて、つないでいく」をこの施設のモットーにしたいと思う。時代が変わっても人生の充実は選択肢の多さで変わっていきと考えている。

このプロジェクトでできた施設を通じて、いろんな人にチャンスが与えられ、人が育ち、活躍することができればいいと思う。

ふじさわオープンラボ vol.2

藤沢市民まつりへの出展に続き、今回のトークイベントにあわせて、OUR Project に関わる市職員、管理・運営予定者、基本設計者と市民の皆さんが気軽に対話ができる「ふじさわオープンラボ」を開催しました。市民の皆さんからは「この施設に対する考えや思い」を伺ったり、検討状況についての質問を受けるなど、対話を行いました。また、前回のオープンラボでも実施した「藤沢らしさ」と聞いて共感するものや言葉、イメージを参加者同士で出し合い、共有しました。



施設に対する考えや思い

施設に対する考えや思い

- ・せつかくの複合施設なのだから機能が融合するとよい
- ・人と人のつながりや、活動の継承を支える施設になってほしい
- ・浸水リスクを踏まえたうえで、十分な対策を講じてほしい など

「藤沢らしさ」と聞いて共感するものや言葉、イメージ

- | | |
|----------------|--|
| 地域資源 | 江の島、江ノ電、遊行寺、大庭城址、藤沢宿、テラスモール、慶應義塾大学湘南キャンパス など |
| 言葉やイメージ | 湘南、気候が良い、駅伝ルート、海、サーフィン、気持ちよい風が吹く、スローライフ、緑が多い、夕日が美しい、ほどよいスケール感 など |

OUR Project（生活・文化拠点再整備事業）について

< 発行・編集 > 藤沢市企画政策部企画政策課

本プロジェクトの詳細は、こちらから ➡ https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kikaku/shiminkaikan/shiminkaikan_history.html

